

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

1月号 発行 平成25年 2月 5日



東日本大震災関連



いわき地方農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の昨年の12月1か月間の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した14品目37検体のうち、10品目28検体は検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、4品目(原木ひらたけ(露地栽培)、大豆、キウイフルーツ、牛肉)の9検体、基準値を超えたものはありませんでした。品目としては、野菜(ハクサイ、イチゴ(施設)など)や原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。1月20日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、クリ、たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、12月末までの検査点数、494, 876点のうち99.7%の493, 414点が測定機器の検出限界値以下、1, 451点が基準値内で検出が確認されました。もち米1点が基準値を超過しましたが、管理され市場には出回っておりません。調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報、24年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果(12月)

放射性物質 が検出され なかった品 目と検体数	放射性物質が検出された 品目と検体数		計
	規制値内で検 出された品目 と検体数	暫定規制値を 超過した品目 と検体数	
10品目 28検体	4品目 9検体	0品目 0検体	14品目 37検体

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

・小豆 2	・カブ(施設) 1	・イチゴ 2
・ハクサイ 2	・ミカン 1	・原乳 4
・ミズナ(施設) 1	・菌床しいたけ(施設) 2	
・カブ 1	・菌床なめこ(施設) 2	



四倉町下仁井田地区の復興 交付金によるほ場整備

東日本大震災からの復興に向け、いわき市内では、津波の被害を受けた地域のうち3つの地域において農地の大区画化と併せて担い手への農地集積を行い、収益性の高い農業を行う計画を立てています。このうち四倉町下仁井田地区では、約40haの農地を対象として地域の皆さんといわき市及び農林事務所が力を合わせて計画策定を進め、昨年10月に復興事業として復興庁へ申請を行い、11月に認可を受けました。今後は土地改良事業としての手続を進め、平成25年度から平成27年度までの3か年で工事を行う予定です。

本地域は、明治末期に整備したままの小さいほ場と狭い農道という条件に加え、地震による地盤沈下の影響で地域内の排水状況も悪化しました。復興事業では、これら生産基盤の条件不良の解消と担い手農家への経営農地集積の直接補助を合わせて行います。

いわき農林事務所では、「日本の復興はいわきから」の想いのもと、より良い内容にするために地域の皆さんと話し合いを重ねながら、職員一丸となって復興事業を進めていきます。



(下仁井田地区全景)



農産物風評被害対策事業 を実施しました

この事業は、いわき地方における学校の給食や調理実習において、県が放射性物質の測定結果及び産地情報を添付した安全・安心の見えるいわき産の農産物を食材として供給することで、いわき産の農産物についての理解を深めるとともに、風評被害の払拭及び消費拡大による地産地消を推進することを目的として、いわき農林事務所が独自で実施している事業です。

12月17日(月)に県立遠野高等学校、同月19日(水)に県立磐城農業高等学校で実施されました。

県立遠野高等学校では、3年生のフードデザインの授業でいわき産のイチゴ・とちおとめを使ったブッシュドノエルとカナッペをつくり、クリスマス会を開催しました。生徒たちは、「おいしいブッシュドノエルができた。」「ケーキがおいしく豪華にできてよかった。」等、大満足の様子でした。

県立磐城農業高等学校では、生活学科の家庭科クラブ員による農業クラブの研究活動として、「地元産いちごを利用した料理づくり」のテーマでいわき産のイチゴ・とちおとめを使ったいちごシフォンをつくりました。生徒たちは「イチゴのフレッシュな味がクリームに混ざりおいしくできた。」「ほのかなイチゴの味と香りがよかった。」等、こちらも大満足の様子でした。

両校の生徒とも地元産の農産物をおいしく味わうことができましたようです。今後、申し込みのある他の学校でもこの事業を実施する予定です。



(県立遠野高等学校・ブッシュドノエル)



(県立遠野高等学校・カナッペ)



(県立磐城農業高等学校・いちごシフォン)



1月1日付で新採用職員 が着任しました

県では、震災と原発事故からの復旧・復興を進めるなか、深刻化する職員不足を補うため、来年度の4月1日付けで採用する予定だった職員のうち18人を前倒して1月1日付けで採用しました。

本いわき農林事務所でも、農村整備部へ技術系職員1名が配属されました。農村整備部では、農道や排水機場等の整備・復旧等を進めるとともに、津波被害を受けた地域の復興を目的として、復興交付金事業によるほ場整備事業3地区について平成25年度から着工すべく計画策定等に取り組んでいます(四倉の下仁井田地区については1ページの記事で報告しております。)。新たな職員を迎え、より一層いわき地方の復興を加速させるよう、全力で取り組んでいきたいと思っております。

一般情報



いわき農業普及推進懇談会を開催しました

12月18日(火)、県いわき合同庁舎において、「いわき農業普及推進懇談会」を開催しました。

今年度残期間の普及指導活動や営農対策を効果的に推進するため、普及指導活動の取組経過を報告し、関係機関や農業者代表から意見をいただきました。

今年度から普及指導計画に新たに盛り込んだ「東日本大震災からの復旧・復興及び原子力災害対策への取組」として、津波被害地区での基盤整備の推進やイチゴの塩害対策、水稻の放射性物質吸収抑制対策技術、草地更新による除染対策の普及、さらには、米全袋検査体制整備や検査の実施への支援などの活動を報告しました。

出席者からは、未だに風評被害が収束しない現状を始め、米全袋検査の状況等の報告や農業者が意欲を持って生産できるような取組を求めるとの意見をいただきました。

今後もいわき農林事務所では引き続き関係機関と連携し、災害からのいち早い復旧・復興を求める営農対策を重点とした活動を展開することとしています。



(いわき農業普及推進懇談会の様子)



いわき市農業委員会 発足40周年記念式典が 開催されました

12月26日(水)、いわき市平の正月荘において、いわき市農業委員会の発足40周年を記念する式典が開催されました。

いわき市農業委員会は、昭和47年7月20日に1市1農業委員会として発足して以来、優良農地の確保と有効利用、農用地の利用集積など、地域に根ざした活動を行ってきました。

鈴木理会長からの式辞の中で、「農作物の風評被害は大変な状況であったが、各種対策により徐々に解消されてきているのではないか。」との話がありました。

その後、農業委員として長年にわたり貢献された3人にいわき市農業委員会会長特別表彰、19人にいわき市農業委員会会長表彰が授与されました。

県ではいわき市農業委員会と連携し、いわき市の農業のいち早い復興を目指していきたいと考えています。

注) 農業委員会...市町村に設置されている行政委員会で、農地法に基づく農地の権利移動・転用・遊休農地の有効利用のための業務、その他農地の集積に関連する事務などを行う。



(表彰の様子)



観光いちご園「アグリ パークいわき」オープン

12月28日(金)、いわき市平下神谷に観光いちご園「アグリパークいわき」がオープンしました。この観光いちご園では、旧県農業試験場跡地の約4千㎡のハウス内にとちおとめ、紅ほっぺ、章姫(あきひめ)の3品種合わせて約3万6千株を、九州の土を利用した高設溶液栽培をしています。イチゴ棚が高く設置されているため腰を曲げずに立ったまま収穫できるだけでなく、通路を広くしてあるので車椅子やベビーカーなどの通行も容易なバリアフリーです。現在はイチゴの旬を迎え、3品種のイチゴはどれも食べ頃で真っ赤に熟しているものがあります。定休日の月曜日(祝日の場合は開園)を除く6月上旬までの午前10時から午後4時まで開園の予定です。

お問い合わせは、アグリパークいわき(電話：0246-68-7203)までお願いします。



(ハウス内部)



(食べ頃のイチゴ)



いわき市中央卸売市場の 初市式が開催されました

いわき市中央卸売市場の初市式は、花き部が1月4日(金)、水産物部、関連事業者及び青果部が5日(土)に行われました。

初市式では、両日とも市場関係者、国会議員など多数が参加し、いわき市長及び市議会議長の挨拶の後、参加者全員の手締めにより今年一年の活況祈願が行われました。

青果部では、挨拶と手締めの後、市場の安全と繁栄を願って紅白の餅がまかれ、参加者の笑顔と活気に満ちた新たな一年のスタートになりました。その後に行われた初競りでは、競り人や仲卸業者などの寒さを吹き飛ばす威勢よいかげ声の中、次々と商品が競り落とされました。

東日本大震災からの復旧・復興を後押しするために、食料品等の安定供給が期待されます。



(青果部初市式の投げ餅風景)



(水産部初市式)



平成25年平木材市場 「初市」が開催されました

1月10日(木)、株式会社平木材市場の平成25年初市がいわき市内郷綴町にある同市場で行われました。

初市には、木材関係者ほか約120名が出席し、齋藤公男(さいとうきみお)社長、滝口正行(たきぐちまさゆき)買方組合理事長のあいさつの後、多数の来賓を代表していわき農林事務所戸井田和(といたまさ)所長が、乾杯の発声を行いました。

市には、スギ、ヒノキ、ケヤキなど通常の市の約3倍の量である素材2,900^mと製品400^mの優良材が入荷され、スギ中目材(細い部分の径20~28cm)が1^m当たり1万1500円台で落札されました。当日は天候にも恵まれ、活気に満ちた競り売りが繰り広げられました。



(初市の原木競り売り風景)



食彩ふくしま地産地消 推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（2月は8日(金)）に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更する場合がありますのでご了承ください。

1 いわき食彩館株式会社 スカイストア (平字一丁目)

メニュー： 日替わりランチ
日替わり弁当

説明：いわき産のこだわりの食材を生かした料理（県産の米、野菜等を含む）

実施日： 月～金曜
毎日

2 純中国料理 大雅（佐糠町）

(1) 推進日のメニュー

地産地消メニュー：

鶏肉とカシューナッツ炒め

若鶏肉の唐揚（カレー粉仕上げ）

説明：県産の鶏肉を使用。

実施日：2月8日（金）

(2) 推進日を含む毎日のメニュー

地産地消メニュー： 焼き餃子

水餃子

説明：県産のハクサイ、玉ネギ、ニラ、挽肉を使用。

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

3 農林水産物モニタリング情報

(1)モニタリング情報検索

(2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

